

女子サッカー界の同性愛

Homo-sexuality in the women football world.

1k03b216-2 渡辺夏奈

指導教員 主査：山崎 勝男先生 副査：内田 直先生

1. 序論

筆者は大学の部活動で女子サッカー部に所属し活動している。大学女子サッカー界では同性愛者の選手が多く存在している。なぜ女子サッカー界には同性愛者が多く存在しているのかという疑問を抱いた。本研究では、スポーツ選手の同性愛について「語り（ナラティブ）」を通し、きっかけや経緯について読み取り、共通する点などを見つけ出し、語りの中からなぜ女子サッカー界に同性愛者が多いのか、またその人たちの性的指向がどのようにして決定されていったのかを明らかにすることを目的とする。

2. インタビュー内容

インタビューは筆者自身が行い、情報提供者が指示する場所に出向き、1対1で話す形で行った。インタビューを行うにあたり、情報提供者に調査依頼書(付録2)、調査同意書(付録3)を配布し、研究目的、インタビュー内容、インタビューの録音、研究目的のみインタビュー内容を使用する旨を説明して了承を得た。また、きっかけや性的指向の決定要因に関係することであっても、話したくない内容については、話さなくてもよい旨を伝えた。録音されたインタビュー内容は、インタビュー記録として保存し、インタビュー時間は1人15～60分前後であった。

3. 質問内容

- (1.) プロフィール(競技種目、競技歴、高校は男女共学か、)
- (2.) 今までの恋愛経験と初めて同性に恋愛感情を抱いたのは(きっかけ、動機、その時の気持ち)
- (3.) 現在の大学と部活での恋愛環境と性的指向
- (4.) カミングアウトはどれくらいの人にまでしているのか
- (5.) 今までで大変だったこと
- (6.) 将来への不安
- (7.) 特に男らしさを意識することはあるか
(性的役割が男性の場合)

4. 考察

インタビューから人間の性は私達が産まれた時には、性別学的性により性別が決定される。そこで男か女かのどちらかの性に分けられる。しかし、性には様々なバリエー

ションがあるのではないかと。またそのバリエーションの中でもメンタルの部分においては、各個人によつての差があるのではないかと。

同性愛者が多いスポーツサッカー、野球、ハンド、ソフトは「女らしさ」よりも「男らしさ」の方へ当てはまる。これらのスポーツは激しいコンタクトがあるものや、元々男性が楽しんでいたスポーツである。ユニホームも男性とほとんど変わらない。そのため男性がやるスポーツとして見られ、男らしく見られるのではないかと。元々男性がやっていたスポーツのため、そのスポーツを追及していくと、パワーやメンタルなどの「強さ」男らしさが必要となってくる。それが競技に必要な部分以外にも現れ、すべてにおいて「男らしさ」を求めていく選手も現れてくる。そのため同性と付き合っている選手がより高いレベルで多くみられるのだろう。

被験者達の周りには同性愛者である人たちが存在していた。高校や、大学、クラブチームなど環境の変化によって同性愛者の人たちが周囲に現れることにより、異性愛者から同性愛者へ変化したり、自分が同性愛者であることを自覚するという結果が得られた。

同性愛者だという事に理解を示してくれると考えられる人たちには伝えることができるが、難しいと考えられる場合は伝えることをさけると考えられる。

5. 結果

まず同性愛は異性愛のように人間の心の中にあるものであり、それらが現れるか現れないかはその本人の感情や環境による。特に女子サッカー界ではサッカーというスポーツの特性から同性愛も発揮されることが多い。そして、「男らしさ」を求める選手も多く、チーム内やサッカー界内での恋愛も盛んになるそのため同性愛者が多くオープンな環境になり、それらが認められやすくなる。

日本では少数派は否定的に捉えられやすい。そのため一般の社会では同性愛は特別視されている。しかし、女子サッカー界においては、同性愛が少数だけに留まらない。そのため否定的に捉えたり、捉えられる事がないため、女子サッカー界には同性愛者が多く存在する。またそのような環境の中にいることで、自分自身が同性愛であることを認識したり、性的指向の対象が広まることが見出せた。